＜美しい東北の実現＞

重点事項：循環型社会の構築

主な目標

①健全な水循環の確保のため、貴重な水資源の保全・有効活用を図ります。
②資源の有効利用を目指して、静脈物流システム※1の整備を図ります。
③建設廃棄物の発生抑制、廃棄物の再資源化、建設発生土の有効利用など徹底したリサイクルを推進します。
④自然を利用したクリーンエネルギーの積極的な導入を図ります。

※1静脈物流システム：消費者から排出され、利用後の廃棄物が回収、再資源化されるまでの物流システム。

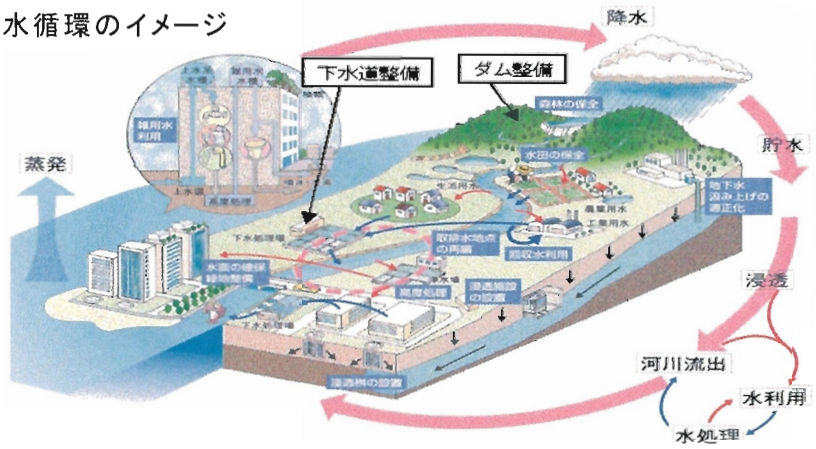
目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・健全な水循環の確保のため、ダム整備により安定した水の供給と水資源の有効活用を図るとともに、流域の静脈的役割となる下水道事業を推進します。

（具体箇所例）

直轄：胆沢ダム建設事業　（別冊P.57）
補助：特定環境保全公共下水道事業（宮城県登米市）　（別冊P.59）

●水循環のイメージ





▲治水対策のほか、灌漑等水資源として大いに期待される胆沢ダム

・リサイクルポート※2における港湾整備を進め、総合的な静脈物流ネットワーク拠点を形成します。

※2リサイクルポート：広域的なリサイクル施設の立地に対応した静脈物流の拠点づくりを支援する港湾のこと。リサイクルポートにおける港湾施設の整備を進め、企業立地の促進と総合的な静脈物流拠点の形成を図ります。

（具体箇所例）

●リサイクルポートの指定により、酒田港のリサイクル関連の立地企業が増加



再資源化事例



部品等の再利用

金属、プラスチック等の再資源化

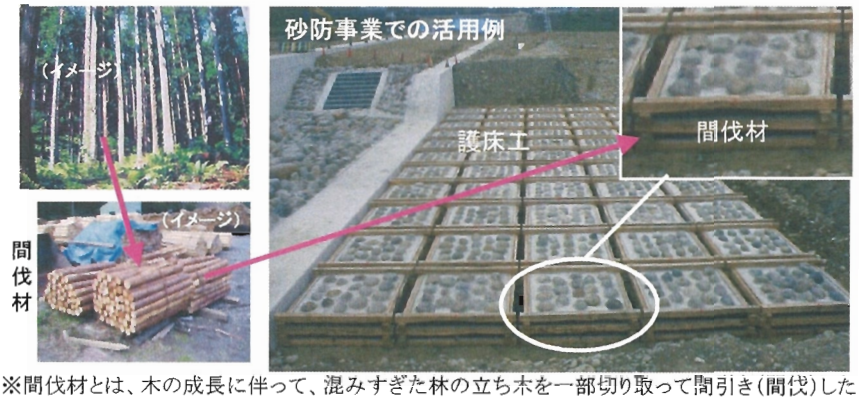
酒田港に立地の自動車リサイクル工場では、廃自動車を解体、破砕し、再利用可能な部品等に選別。

選別された鉄スクラップ等は、他港へ送られ、再利用が図られています。

・建設廃棄物の発生抑制、廃棄物の再資源化、建設発生土の有効利用など徹底したリサイクルを推進します。

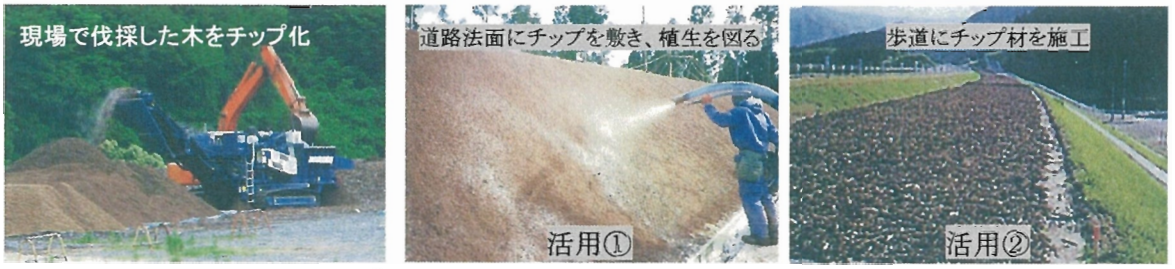
（具体的な取り組み例）

●砂防事業における間伐材を護床工に活用した事例（阿武隈川水系松川砂防事業［直轄］）



※間伐材とは、木の成長に伴って、混みすぎた林の立ち木を一部切り取って間引き（間伐）した木材。間伐により、木が生き生きと育ち、新しい森に成長します。

●「ゼロ・エミッションロード」の取り組み事例



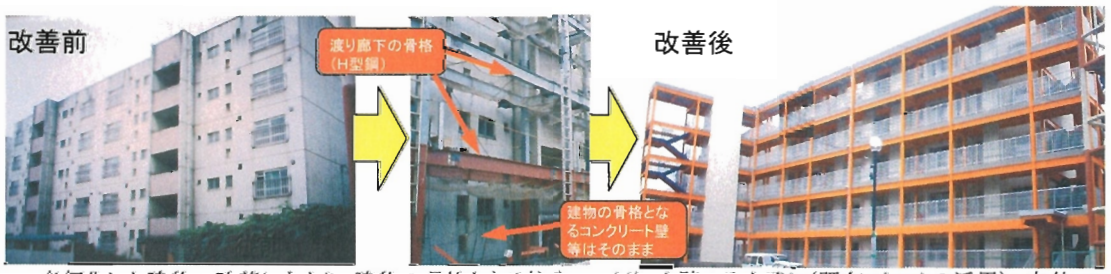
▲事業で発生する木材などの建設副産物を有効活用する取り組みを進めています。

・既存公営住宅の改善等において、既存ストックを有効に活用した効率的な整備を推進します。

（具体箇所例）

補助：仙台市営西中田住宅ストック総合改善事業（宮城県仙台市）（別冊P. 42）

●仙台市営西中田住宅における既存ストックの有効活用



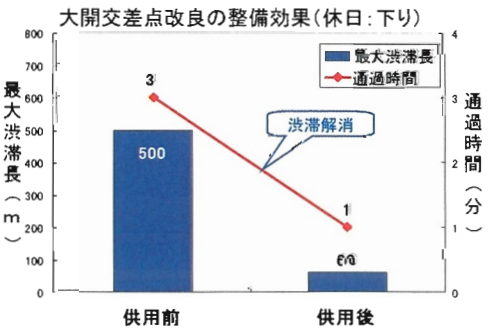
▲老朽化した建物の改善にあたり、建物の骨格となる柱やコンクリート壁のみを残し（既存ストックの活用）、内外仕上げを新たに施工

・**「CO_2削減アクションプログラム」（新規）**により、主要渋滞ポイントの解消を図り、CO_2排出を抑制します。

（具体箇所例）

直轄：一般国道４５号　八戸南道路　（別冊P. 58）

●バイパス整備等により慢性的な渋滞を解消によるCO_2削減



▲大開交差点の渋滞解消により、CO_2約1,700t-CO_2/年が削減されます。同等の効果を樹木によるCO_2吸収で得るためには、167ha（フルキャストスタジアムの約250倍）の植林が必要となります



▲国道45号　大開交差点の渋滞状況